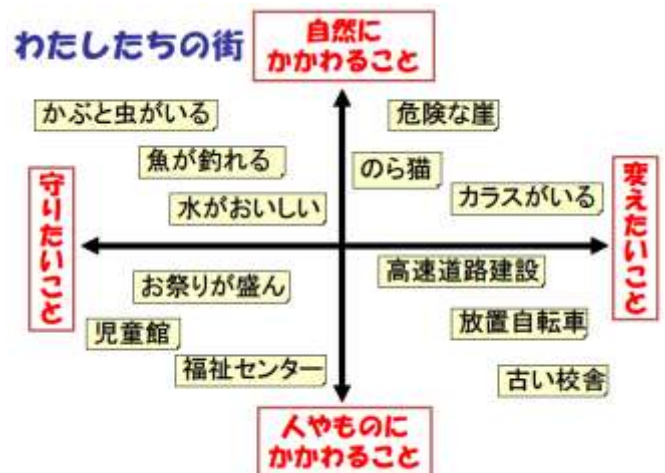
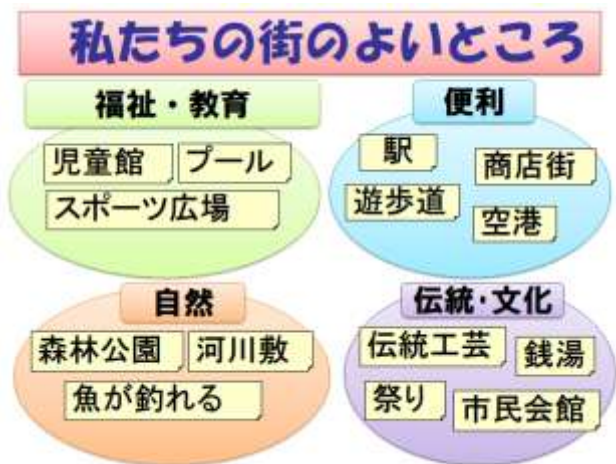


「伝え合う力」を高める「話すこと・聞くこと」の学習指導の工夫
 ～言語活動にKJ法と座標軸法を取り入れた参加型学習を通して～



那覇市立安岡中学校教諭

新垣 真

目次

- I テーマ設定の理由
- II 研究目標
- III 研究仮説
 - 1 基本仮説
 - 2 作業仮説
- IV 研究構想図
- V 研究内容
 - 1 「伝え合う力」を高めるについて
 - (1) 「伝え合う力」を高めるとは
 - (2) 「伝え合う力」を高める「話すこと・聞くこと」の育成
 - 2 言語活動の充実について
 - 3 「伝え合う力」を高める「話すこと・聞くこと」の学習指導の工夫について
 - (1) 単元構想表の工夫
 - (2) 学習指導の工夫
 - ① KJ法を取り入れた参加型学習の工夫
 - ② 座標軸法を取り入れた参加型学習の工夫
- VI 授業実践
 - 1 単元名
 - 2 単元目標
 - 3 単元について
 - 4 単元の評価規準
 - 5 指導と評価の計画
 - 6 本時の学習
 - (1) 目標
 - (2) 授業仮説
 - (3) 展開
- VII 結果と考察
 - 1 作業仮説(1)の検証
 - 2 作業仮説(2)の検証
 - 3 事後指導の生徒の姿から
- VIII 研究の成果と今後の課題
 - 1 成果
 - 2 課題

《主な参考文献》

「伝え合う力」を高める「話すこと・聞くこと」の学習指導の工夫

～言語活動にKJ法と座標軸法を取り入れた参加型学習を通して～

那覇市立安岡中学校 教諭 新垣 真

I テーマ設定の理由

価値観が多様化する現代社会では、豊かな人間関係を築きながら様々な変化や課題解決に向けて協働で対応するために、人に何かを伝え、お互いの立場や考えを尊重しながら人とコミュニケーションを図る「伝え合う力」が大切な能力となる。

平成20年3月に告示された中学校学習指導要領国語科の目標には「国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高める」とある。「伝え合う力を高める」とは、学習指導要領解説で「人間と人間との関係の中で、互いの立場や考えを尊重し、言語を通して適切に表現したり正確に理解したりする力を高めること」とある。このような言語能力は相手、目的、場面や状況に応じて適切に表現したり正確に理解したりする能力であり、「A 話すこと・聞くこと」「B 書くこと」「C 読むこと」の各領域における指導と具体的な言語活動を通して育まれる。また、学習指導要領では、各種調査等の結果及び課題から、各教科等において知識や技能の習得とともに思考力・判断力・表現力等の育成が重視され、言語活動の充実を掲げている。このように、社会的背景や学習指導要領の趣旨から、国語科教育では「伝え合う力」を高めると共に、思考力・判断力・表現力等を育むための言語活動を充実させる必要がある。

これまでの指導を振り返ってみると、「A 話すこと・聞くこと」の領域の授業の中で、生徒は自分の一方的な考えや主張に終始したり相手の考えを否定したりする傾向が見られ、「伝え合う力」の不足が原因で、友人同士のトラブル等に発展するケースもある。また、話し合いや討論の言語活動では、考えをまとめたり広げたりすることができないという場面も見られた。これらの課題を改善するために、言語活動にKJ法と座標軸法を取り入れた参加型学習の指導の工夫を行いたい。自分の考えに他の意見を付け加えて新しい考えや発想を見いだすことで、目的や場面に応じ、社会生活に関わることなどについて立場や考えの違いを踏まえて話す能力、考えを比べながら聞く能力が身につくと考える。また、多様な考えや意見をまとめたり、考えたことや意見をグループや学級全体で相互交流したり、自他の考えの共通点や相違点を整理して話し合ったりする活動を行うことで、自分の考えを広げながら相手の立場を尊重して話し合う能力が身につく、「伝え合う力」を高めることができるだろうと考える。

以上のことから、本研究では、言語活動にKJ法と座標軸法を取り入れた参加型学習の指導の工夫を行うことで、言語を通して適切に表現したり正確に理解したりする「話すこと・聞くこと」の力が身につく、お互いの立場や考えを尊重しながら「伝え合う力」を高めることができるだろうと考え、本テーマを設定した。

II 研究目標

「伝え合う力」を高めるために、「話すこと・聞くこと」の力を育む学習指導を工夫し、言語活動にKJ法と座標軸法を取り入れた参加型学習の指導を実践的に研究する。

Ⅲ 研究仮説

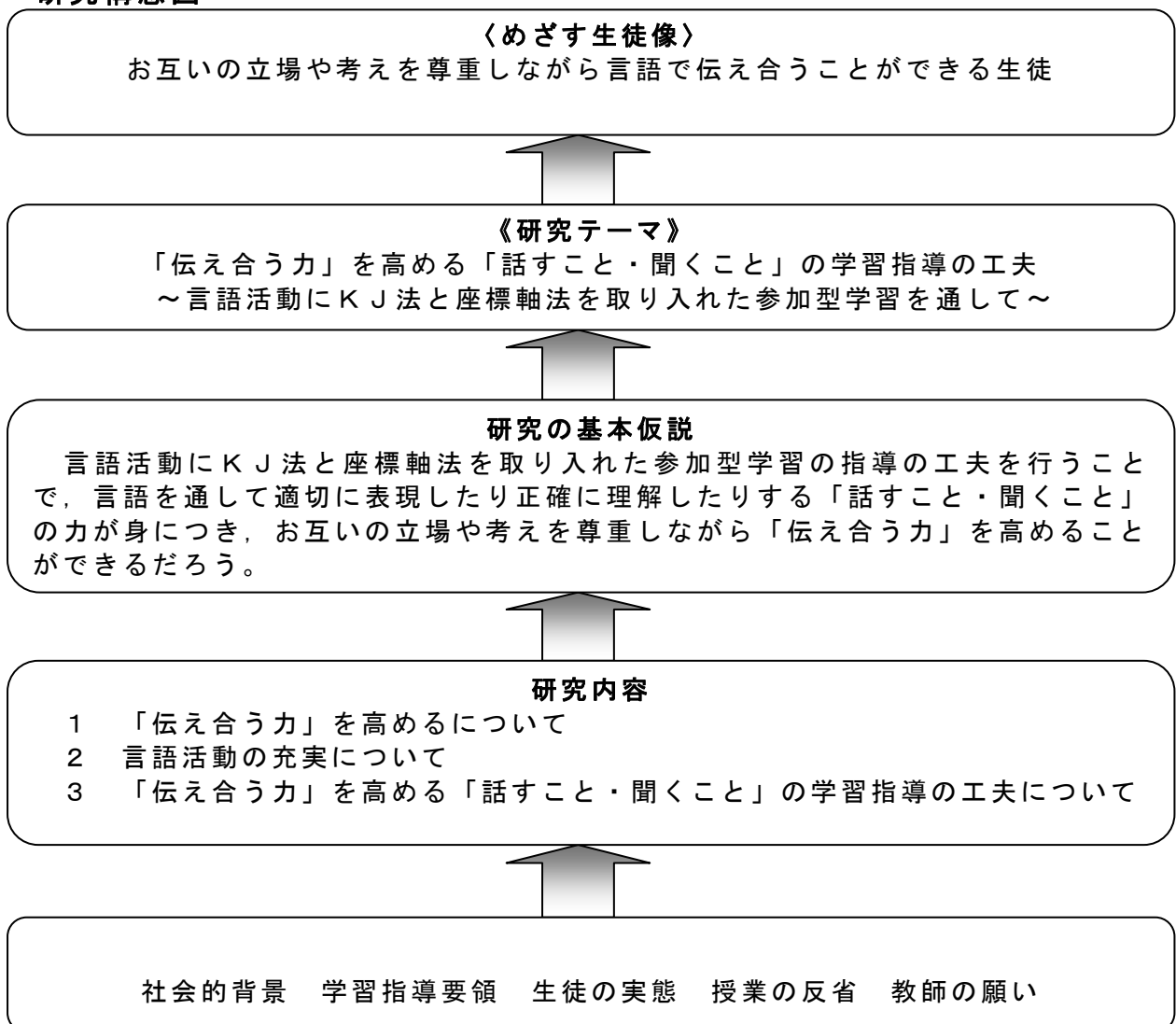
1 基本仮説

言語活動にKJ法と座標軸法を取り入れた参加型学習の指導の工夫を行うことで、言語を通して適切に表現したり正確に理解したりする「話すこと・聞くこと」の力が身につく、お互いの立場や考えを尊重しながら「伝え合う力」を高めることができるだろう。

2 作業仮説

- (1) アイデアを提案する場面においてKJ法を取り入れ、話すときと聞くときのポイントを示した学習指導の工夫を行うことで、論理的な構成や展開を考えて話す力や自分の考えと比較して聞く力が身につくだろう。
- (2) 相互交流において座標軸法を取り入れ、アイデアを整理したり反対の意見について考えたりする学習指導の工夫を行うことで、自分の考えを広げながらお互いの立場や考えを尊重して話し合う力が身につく、「伝え合う力」を高めることができるだろう。

Ⅳ 研究構想図



V 研究内容

1 「伝え合う力」を高めるについて

(1) 「伝え合う力」を高めるとは

相澤秀夫（2009）は「伝え合う力」について、「言葉を仲立ちに互いにわかり合うこと」「互いにわかろうとする姿勢や態度が必要だということ」「新たな人間関係を築ける力」と述べている。また、宗我部義則（2011）は「伝え合う力」を高めることについて、「相手の立場や考えを尊重するためには、論理的な表現で相手にわかりやすく伝えようとしたり、相手の立場等に配慮した適切な言葉遣いをしようとしたりすることが求められる。」と述べている。

つまり、「伝え合う力」を高めるとは、「A 話すこと・聞くこと」の領域では、話す能力と聞く能力を基盤として、お互いの考え方の違いや立場を尊重しながら話し合う能力を高めることといえる。

(2) 「伝え合う力」を高める「話すこと・聞くこと」の育成

河野庸介（2008）は「伝え合う力」高める指導について、「伝え合う力が、社会生活の中で効果的に働くよう、今回の改訂でより具体的に例示された言語活動例を積極的に活用して、相手や目的、場面や状況などに応じて適切に表現したり正確に理解したりする能力として身につくようにすることが大切である。」と述べている。

ここでは、「伝え合う力」を高めるために、中学校学習指導要領の「A 話すこと・聞くこと」の領域にある指導事項「話題設定や取材」「話すこと」「聞くこと」「話し合うこと」をそれぞれ指導することを示している。また、言語活動例を積極的に活用することで、相手や目的、場面や状況などに応じて適切に表現したり正確に理解したりする能力が育まれ、お互いの立場や考えを尊重しながら「伝え合う力」を高めることができるということを示している。

そこで、必要なことは言語活動を手段として、「A 話すこと・聞くこと」の領域にある指導事項のどれを重点的に指導し、どのような力を身につけさせたいのかが明確になった学習指導の工夫をすることである。また、お互いの考え方の違いや立場を尊重して話し合う言語活動を取り入れることで、「伝え合う力」を高めることができる参加型学習の指導の工夫をする必要がある。

2 言語活動の充実について

中学校学習指導要領国語編（平成20年9月）では、改訂の要点の一つに言語活動を充実させることが掲げられた。例えば、「A 話すこと・聞くこと」の領域の第2学年には、「ア 調べて分かったことや考えたことなどに基づいて説明や発表をしたり、それらを聞いて意見を述べたりすること。」「イ 社会生活の中の話題について、司会や提案者などを立てて討論を行うこと。」の二つの言語活動例が設定されている。

「ア」では、調べたことや考えたことを「説明」する言語活動と「発表」する言語活動があり、「イ」では、「討論」する言語活動がある。そして、それらに対して意見を述べたり質問したりする聞き手の言語活動が組み合わされている。

言語活動を指導する際には、「説明」「発表」「討論」等の言語活動の知識や技能だけを指導するのではなく、相手や目的、意図に応じて、話し方や聞き方、話し合い方が異なってくることを指導する必要がある。例えば、「収入の多い仕事とやりがいのあ

る仕事では、どちらがいいか」という対立的な考え方の話題と、「仕事を選ぶ上で大事なことは何か」という広がりのある話題では、討論の形態や進め方、また、目標の置き方や考え方の広がりには違いがあることを指導する必要がある。

つまり、言語活動の充実とは、言語活動を指導するのではなく、言語活動を通して「A 話すこと・聞くこと」の領域に示されている指導事項の内容を具体的に学習指導することと言える。その際には、言語活動と指導事項との関連が意図的・計画的に図られた授業づくりの構想を持つことが重要である。

3 「伝え合う力」を高める「話すこと・聞くこと」の学習指導の工夫について

(1) 単元構想表の工夫

言語活動と指導事項との関連を明確にするには、富山哲也（2011）の提唱した単元構想表（表1）が有効である。単元構想表の特徴は、単元を貫く言語活動が示されている。また、学習の見通しが持てるように学習過程が明確化され、個々の生徒が学習計画を立てやすくなっている。そして、単元の終わりには学習の流れを振り返り、課題解決に道筋をつけることができる。このような授業を繰り返すことで、生徒の自ら学び、課題を解決していく力を育むことができる。

表1 単元構想表「A 話すこと・聞くこと」第2学年（◎○は指導の重点化を表す。一部加筆）

言語活動例		(2)「A 調べてわかったことや考えたことなどに基づいて説明や発表をしたり、それらを聞いて意見を述べたりすること。」			
校区内の小学校の六年生に自分たちの学校を紹介するための方策を話し合う。	指導事項(1)		学習活動	評価規準	時
	ア	「社会生活の中から話題を決め、話したり話し合ったりするための材料を多様な方法で集め整理すること。」 【話題設定や取材】	中学校の特色のどこに焦点をあてるのが効果的か考え、アイデアマップを用いて伝えたい事柄を集め、話す順番を考える。	小学生に中学校の特色を発表するという目的に応じて、話し合ったりするためのアイデアを整理している。	1
	イ◎	「異なる立場や考えを想定して自分の考えをまとめ、話の中心的部分と付加的な部分などに注意して、論理的な構成や展開を考えて話すこと。」 【話すこと】	互いのアイデアについて、KJ法を取り入れて提案し合い、「小学生に興味を持ってもらう」という視点で、座標軸法を用いてグループで一番良いと思うアイデアを決める。	自分のアイデアが効果的であることを、異なる考えの人にも理解してもらえるように話の構成や展開を工夫して話している。	2 5
	ウ	「目的や状況に応じて、資料や機器などを効果的に活用して話すこと。」 【話すこと】	グループで決めたアイデアに沿って、これまでの資料や写真などから用いる材料を決め、プレゼンテーションの準備をする。	わかりやすい構成や展開を考えて、資料提示や機器の活用について考え、発表メモを作成している。	3 4 5
	エ○	「話の論理的な構成や展開などに注意して聞き、自分の考えと比較すること。」 【聞くこと】	グループごとにプレゼンテーションの練習を行い、小学生が興味を持つ内容になっているか考えながら聞く。	話の構成や展開などに注意して聞き、質問をしたり意見を述べたりしている。	2 3 4
	オ○	「相手の立場や考えを尊重し、目的に沿って話し合い、互いの発言を検討して自分の考えを広げること。」 【話し合うこと】	全グループのアイデアを学級全体で比較、検討し、どれを採用するか話し合い、今後の計画を立てる。	小学生に魅力を持ってもらえるような紹介になるように、各グループのアイデアについて検討している。	2 5 6
	関連する【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】 (1)「イ(ア) 話し言葉と書き言葉との違い、共通語と方言の果たす役割、敬語の働きなどについて理解すること。」			聞き手を意識し、話し言葉としてふさわしい語句でプレゼンテーションしている。	
【国語への関心・意欲・態度】に関する評価			中学校の特色を紹介するために、進んで提案したり話し合ったりしている。		

このように、単元構想表の工夫を行うことで、言語活動と「A 話すこと・聞くこと」の領域にある指導事項との関連が明確になり、言語活動を通してどの指導事項を重点的に指導するのか情報が整理され、全体像をとらえやすくなることができる。

(2) 学習指導の工夫

① KJ法を取り入れた参加型学習の工夫

話し合いとは、話し合いの参加者全員の合意形成がゴールとなるが、「言っても聞いてもらえない。」「話し合いでは決まったけれど…」という形式的な合意にとどまる可能性もある。そこで、言語活動にKJ法を取り入れた参加型学習を行う。

KJ法とは、文化人類学者の川喜田二郎（東京工業大学名誉教授）がデータをまとめるために考案した手法である。付箋紙にデータを記述し、付箋紙をグループごとにまとめ、図解し、論文等にまとめていくのである（図1）。KJ法は、次の4つのステップからなる。

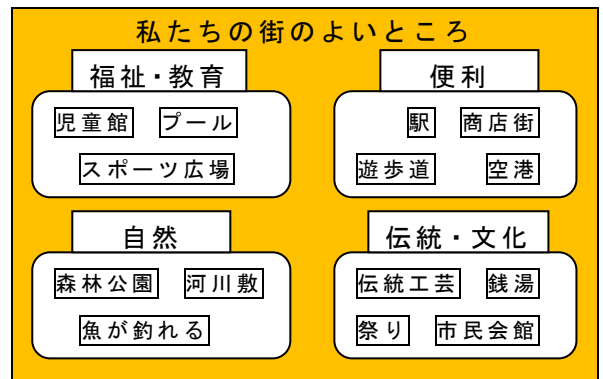


図1 KJ法を取り入れたグループ化の例

- 1 付箋紙の作成
1つのデータを1枚の付箋紙に要約して記述する。
1枚に1つのデータだけ。複数書き込まない。
 - 2 グループ編成
数多くの付箋紙の中から似通ったものをいくつかのグループにまとめる。
それぞれのグループに見出しをつける。
 - 3 図解化（KJ法A型）
 - 4 叙述化（KJ法B型）
- ※ 様々な用途に合わせて色々なサイズ・色の付箋紙を用意する。

話し合い活動になると、消極的で話し合いに参加することができずに押し黙ってしまう生徒も中にはいる。しかし、KJ法を取り入れた話し合いでは、話し合いに参加した生徒の意見や考えが書かれた付箋紙が最後までデータとして残るので、一人ひとりの発言が保証され、全員のやる気と満足感を引き出し、次も発言したいという意欲を持たせることができる。そして、話し合いに参加した参加者全員の合意形成を図りやすくしている。このように、言語活動にKJ法を取り入れることで、生徒は主体的に学習に取り組み、スムーズに話し合いに参加することができる。

生徒は自分の考えを述べるときに、自分のアイデアが効果的であることを異なる考えの人に理解してもらえるように、話の構成や展開を工夫して話さなければならない。そこで、「わかりやすく話すポイント」を示して、自分のアイデアを効果的に伝える話し方の学習指導の工夫を行う。

- 1 はじめに付箋紙を提示して、自分の意見や考えを短く簡潔に述べる。
- 2 - ① 理由・根拠と、その効果を項目立てて述べる。
- ② 前の人と同じ考えなのか、反対の考えなのか、「つなぎ言葉」を入れる。
 - 共感…同じ考えですが ●体験…同じような体験があるのですが
 - 比較…違う考えですが ●気づき…今、気づいたのですが
 - 想像…もしそうだとしたらと考えてみて

次に、「聞くときの到達ポイント」と聞き取りメモの学習指導の工夫を行う。

- 1 うなずきながら聞く。(どんな意見も一度は受け入れる)
- 2 自分の考えと比べて、メモを取りながら聞く。
- 3 わからないことは質問をする。

このように、アイデアを提案する場面においてKJ法を取り入れることで、課題解決に向けて主体的に学習に取り組む参加型学習が可能となる。また、話すときと聞くときのポイントを示した学習指導の工夫を行うことで、論理的な構成や展開を考えて話す力や自分の考えと比較して聞く力を身につけることができる。

② 座標軸法を取り入れた参加型学習の工夫

W・S・ハウエル(1992)は、コミュニケーションは「自分と相手との間で協力して作り上げる“ジョイント・ベンチャー”である」として協同型モデルを提唱した(図2)。

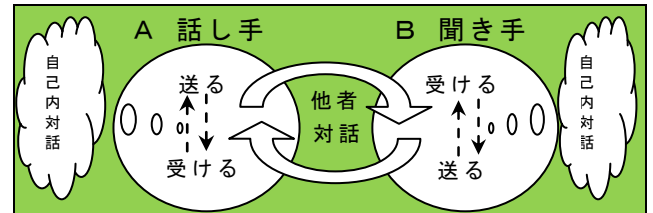


図2 ハウエルの協同型モデルのイメージ図(一部加筆)

参加者AとBの間には、相手の話を聞いて自分の話を返す間にも、互いに頭の中で考えを巡らしたり(自己内対話)、また様々な身体反応(非言語コミュニケーション)を発信し合ったりして理解を深め合っている。対話という協同作業の相互交流(コミュニケーション)を取り入れることで、生徒は学習内容に対して理解を深め合うことができると考える。

そこで、言語活動にKJ法を取り入れた参加型学習において、グループや学級全体で比較、検討する相互交流(コミュニケーション)を行い、学習の理解を深め合う活動を取り入れる。KJ法の進め方「3 図解化」と「4 叙述化」である。グループで話し合って合意形成した内容を一文に要約してまとめるのである。

合意形成の切り口として、KJ法の進め方「3 図解化」の活動で座標軸法を用いた指導を行う(図3)。

座標軸法とは、二つの観点を縦と横の座標軸に据え、それぞれの観点がどう組み合わせられていくかを図解化し、考え方を広げていく方法である。

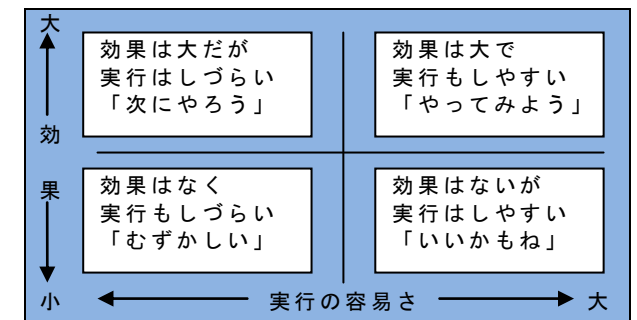


図3 座標軸表の相関図

座標軸法を用いた話し合いは、座標の位置関係から共通点や相違点が整理されるので、アイデアを比較・検討をして、お互いの合意形成が図りやすくなる。また、質問したり意見を聞いたりして良いと思った考えは、柔軟に取り入れて叙述化することで、自分の考えを広げながら学習内容に対して理解を深め合うことができる。

このように、相互交流において座標軸法を取り入れることで、共通点や相違点を整理して話し合い、参加者全員の合意形成を図る参加型学習が可能となる。また、アイデアを整理したり反対の意見について考えたりする学習指導の工夫を行うことで、学習内容の理解を深め合い、自分の考えを広げながらお互いの立場や考えを尊重して話し合う能力を身につけ、「伝え合う力」を高めることができる。

VI 授業実践 (第2学年)

1 単元名 印象に残る説明をしよう プレゼンテーションをする (光村図書P50)

2 単元目標 (◎○は指導の重点化)

- (1) グループのメンバーと協力して、わかりやすく印象に残る説明の仕方を工夫する。
 ◎(2) 聞き手の知りたいことを想定し、論理的でわかりやすい構成を考えて話す。
 (3) 資料や機器を活用し、写真や図表などを効果的に組み合わせて説明する。
 ○(4) 話の構成に注意し、自分の考えと比較しながら聞く。
 (5) 相手を意識して聞きやすい言葉遣いや声量で話す。

3 単元について

本単元では、資料や機器を活用したプレゼンテーションを通して、構成や資料との組み合わせを工夫し、わかりやすく印象に残る説明の仕方を学習することができる。

本単元に入る前に、「話すこと・聞くこと」に関するアンケート調査を実施したところ、話の構成や展開を工夫して話す能力や相手の考えを自分の考えと比べながら聞く能力が不足しており、相手の立場や考えを尊重して話し合う「伝え合う力」を十分に身につけていない生徒の姿が浮かび上がった。(P45「Ⅶ 結果と考察」を参照)

これまで、国語の授業でKJ法や座標軸法を取り入れた授業は、受けたことはない。

本指導では、単元に入る前に単元構想表(P40表1)を生徒に提示して学習の見通しを持たせ、KJ法を取り入れた参加型学習を通して、「話すこと・聞くこと」の能力の育成を図りたい。また、座標軸法を用いた相互交流から、自分の考えを広げるような態度を身につけ、「伝え合う力」を高めることができるようにしたい。

4 単元の評価規準 ()は該当する指導事項等の記号

【関心・意欲・態度】	【話す・聞く能力】	【知識・理解・技能】
① 学校の良いところを紹介するために、進んで提案したり、話し合ったりしている。	① アイデアの効果を、異なる考えの人に理解してもらえるよう工夫して話している。(イ) ② 自分のアイデアと友だちのアイデアとを比べながら聞いている。(エ) ③ 小学生に興味を持ってもらえるように、各グループのアイデアについて検討している。(オ)	① 聞き手を意識し、話し言葉としてふさわしい語句でプレゼンテーションしている。イ(ア)

5 指導と評価の計画 (6時間計画, P40表1「単元構想表」を参照)

時	学習活動	評価規準	評価方法等
1	・安岡中学校の特色について、中心的な部分と付加的な部分に分けて構想メモを作成し、話す順番を考えて自分のアイデアをまとめる。	【関心・意欲・態度】①	行動の観察 構想メモの内容
2 本 時	・お互いのアイデアを持ち寄り、グループ内においてKJ法を取り入れて提案し合う。 ・小学生に興味を持ってもらうという視点で、座標軸法を用いて良いと思うアイデアを決める。	【話す・聞く能力】①②	提案の様子の観察 構想メモ 聞き取りメモ
3 4	・グループで決めたアイデアを提案するために、写真や図、数値などを用いた資料(絵コンテ)をつくり、プレゼンテーションの準備をする。	【関心・意欲・態度】① 【話す・聞く能力】①	行動の観察 企画書の内容 発表原稿
5	・学級全体に向けたプレゼンテーションをする。 ・自分たちの提案と比較しながら、小学生が興味を持つ内容になっているのか考えながら聞く。	【知識・理解・技能】① 【話す・聞く能力】①②	提案の様子の観察 聞き取りメモ
6	・各グループのアイデアについて比較・検討し、学級のアイデアを決める。	【話す・聞く能力】③	話し合いの様子の観察

6 本時の学習

(1) 目標

- ・構成や展開を工夫して話したり，相手の考えを自分の考えと比べながら聞いたりする。
- ・考えを広げながら，お互いの立場や考えを尊重して話し合い「伝え合う力」を高める。

(2) 授業仮説

- ① 「わかりやすく話すポイント」と「聞くときの上達ポイント」を示した学習指導をKJ法に取り入れて話し合うことで，論理的な構成や展開を考えて話す力や自分の考えと比較して聞く力を身につけることができるだろう。
- ② アイデアを整理したり反対の意見を考えさせたりする学習指導を座標軸表に取り入れて話し合うことで，自分の考えを広げながらお互いの立場や考えを尊重して話し合う力が身につく「伝え合う力」を高めることができるだろう。

(3) 展開

	学習活動	指導上の留意点	評価項目（方法）等
5分	1 前時を振り返る。 2 学習のめあてを確認する。	・学習のめあてと言語活動を示し，学習の見通しをもたせる。	
展開 40分 (前半 30分 後半 10分)	3 進め方を確認する。 ・テーマ，ルール，ゴール，KJ法の4つのステップ，提案の話し方と聞き方，メモの取り方の確認。 4 言語活動 (1) KJ法を取り入れた話し合い活動 (授業仮説①の検証) ① 付箋紙を模造紙に貼りながら提案する。(KJ法ステップ1) ② 聞き手は聞き取りメモに要点を書く。 ③ 付箋紙を貼り終わったらグループ化する。(KJ法ステップ2) (2) 座標軸法を用いた話し合い活動 (授業仮説②の検証) ① 座標軸表に模造紙の付箋紙を移動する。(KJ法ステップ3) ② 話し合いの結果をまとめる。どんな話題を取り上げるかを考え，グループでの発表する案を決める。(KJ法ステップ4)	・グループは3～5人で行い，授業者が進行と計時を務める。 ・「わかりやすく話すポイント」と「聞くときの上達ポイント」を示し，聞き取りメモの取り方を説明する。 ・一人一枚ずつ提案し，グループの全員が提案した後に，グループ化させる。 ・意味がだいたい似ているものをまとめる。 〈①努力を要する生徒への支援〉 ・前時の構想メモを読み直して，整理し話す順序を考えさせる。 〈②努力を要する生徒への支援〉 ・他のアイデアが自分のアイデアと同じか反対かを考えさせ，要点だけのメモを取らせる。 ・座標軸は，期待される効果を縦軸に，実行の容易さを横軸に取り意見をまとめさせる。 ・位置について話し合い，整理して貼らせる。 ・自分とは反対の意見にも考えさせるようにする。 ・「小学生に興味を持ってもらう」視点で話し合いをさせる。 ・良いと思った意見は他の意見と合わせてもいい。 ・グループの発表案を短い一文でまとめさせる。	【話す・聞く能力】① 〈おおむね満足〉 ・話の構成や展開を「わかりやすく話すポイント」をもとに話している。(提案の様子の観察，構想メモから) 〈十分満足〉 ・自分のアイデアの効果について根拠を明確に提示しながら提案したり，他の人の質問に根拠を明確にして答えたりしている。 【話す・聞く能力】② 〈おおむね満足〉 ・友達のアイデアを自分と比べてメモを取りながら聞いている。(提案の様子の観察，聞き取りメモから) 〈十分満足〉 ・友だちのアイデアが効果的かどうかメモを取りながら提案について質問をし，意見を述べている。
5分	5 振り返りとまとめ ・次時の見通しをもつ。	・成果や感想をワークシートにまとめさせ，自己評価をさせる。	・ワークシートに記入している。

VII 結果と考察

1 作業仮説(1)の検証

アイデアを提案する場面においてKJ法を取り入れ、話すときと聞かときのポイントを示した学習指導の工夫を行うことで、論理的な構成や展開を考えて話す力や自分の考えと比較して聞く力が身につくだろう。

(1) 結果

本検証の単元の第1時の導入では、単元構想表（P40表1）を基に作成したプリントを配付し、生徒が学習の見通しを持てるようにした。生徒は、そのプリントを活用して、本単元で身につける力と言語活動を理解し、学習計画を立てながら本単元の達成目標を記述していた。

前時には、KJ法を取り入れた話し合いをより活発にし、アイデアについて印象に残る説明ができるように構想メモ（図4）を全生徒が作成した。構想メモは、特色の根拠や理由、どんな効果があるかなどを項目立てて作成するように指導した。この構想メモを見ながら順番よく説明することで、話し手は聞き手に分かりやすく印象に残る説明ができるようになっていた。

	1 特色	2 根拠・理由	3 どんな効果
ア	技術	① コンピュータを使うから ② 危ないから ③ 先生の話はちゃんと聞いた方がいいから	・技術って楽しそう ・ふざけないで、先生の話をしっかり聞こう！的な。
イ	地区陸上	① とても楽しいから ② いろんな中学の人と会えるから ③ 女子は日焼け止め持参	・とても楽しそう！ ・他の中学生と友達になれるかも！ ・絶対に焼けるから
ウ	英語の先生	① 英語の先生で楽しいから ② ワジワジしていると変な怒り方をするから ③ 楽しく授業できるから	・英語好きになってくれるよ ・楽しみになる！？

図4 生徒が作成した構想メモ

本時の検証では、生徒が主体的に課題解決に向けて学習に取り組み、スムーズに話し合いに参加ができるように、KJ法を取り入れた話し合い活動の学習を取り入れた。図5は、「話すこと・聞くこと」に関する事前事後のアンケート結果である。

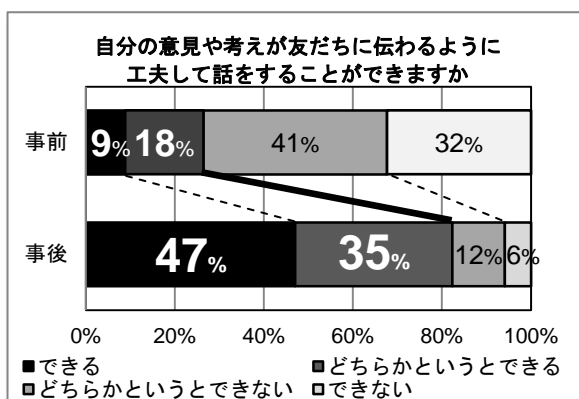


図5-1 「話すこと」に関するアンケート結果

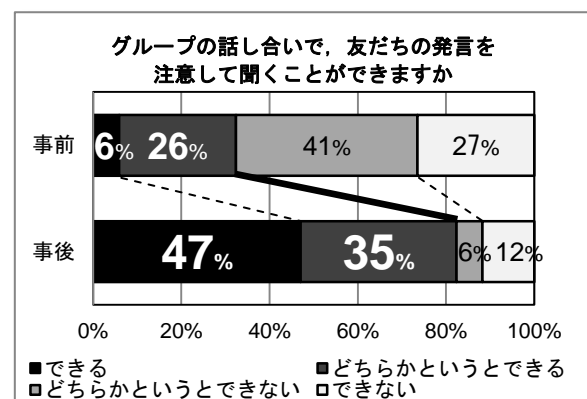


図5-2 「聞くこと」に関するアンケート結果

図5-1, 2の学習前のアンケート結果では、話し合いの場面で自分の意見や考えが友だちに伝わるように工夫しながら話す生徒は27%で、友だちの発言を注意して聞く生徒は32%だった。学習後では、両設問とも82%に増加している。

図6は、KJ法を取り入れた活動後の生徒による感想である。事後の感想には「わかりやすく話すポイント」の「『つなぎ言葉』が難しい。」という回答（2名）もあったが、肯定的な感想が全体の80%を占めた。学級のほとんどの生徒が主体的に課題解決に向けた話し合い活動の学習に取り組めたと見て取れる。

図6の生徒1の感想からは、自分のアイデアをグループの友だちに効果的に伝えるために、言葉や話す順序を変えるなど工夫をして話す生徒の姿が見られる。

生徒2の感想からは、友だちのアイデアを注意しながら聞き、「つなぎ言葉」を用いながら、自分の考えと比較して話したり聞いたりしたことがわかる。

生徒3の感想では、自分の一方的な考えや主張に終始したり相手の考えを否定したりするのではなく、図7の写真のように、お互いに相手の立場や考えを尊重し合いながら、効率よく話し合いができたことを示している。

(2) 考察

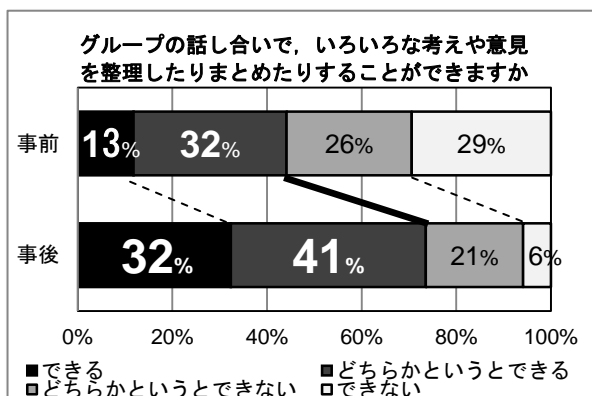
KJ法を取り入れた話し合いでは、アイデアの付箋紙が話し合いの場に残る。そのアイデアについて、生徒は「わかりやすく話すポイント」の共感・比較の「つなぎ言葉」を使って意思表示をしながら話したり、意見が似ているものをグループ化したりすることができた。さらに、「聞くときの上達ポイント」に倣って、聞き取りメモを取りながら自分の考えと比較して聞くことができるようになった。このような学習指導の工夫を行ったことが、(1)の結果、及び生徒の感想につながったと考えられる。以上の考察から、作業仮説(1)が有効である。

2 作業仮説(2)の検証

相互交流において座標軸法を取り入れ、アイデアを整理したり反対の意見について考えたりする学習指導の工夫を行うことで、自分の考えを広げながらお互いの立場や考えを尊重して話し合う力が身につく、「伝え合う力」を高めることができるだろう。

(1) 結果

本検証では、学習内容に対して理解を深め合い、合意形成を図るために、相互交流に自分の考えを広げる座標軸法を用いた話し合い活動の学習を取り入れた。図8は、「話し合うこと」に関する事前事後のアンケート結果である。



生徒1 みんなにわかりやすく伝えるために、言葉や順序をちょっと変えたりして伝えてみた。
 生徒2 嫌だとか良いとかはっきり言えるので、いろんなアイデアが聞けてとても良かった。
 生徒3 相手の意見をしっかり聞いて、効率よく話し合いができた。

図6 KJ法を取り入れた活動後の感想

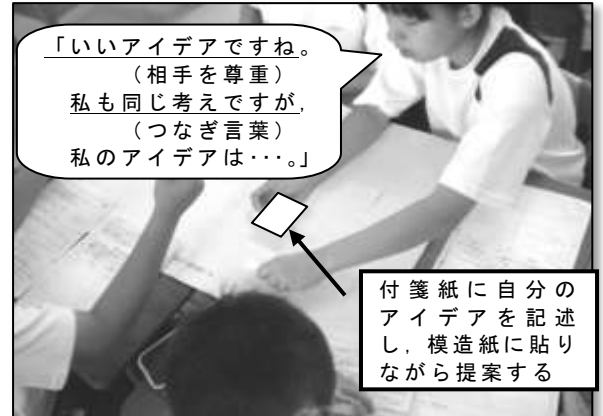


図7 KJ法を取り入れた話し合い活動

図8-1 「話し合うこと」に関するアンケート結果

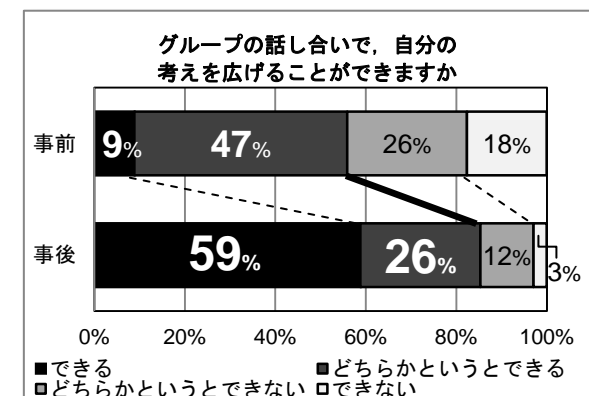


図8-2 「話し合うこと」に関するアンケート結果

図8-1の学習前のアンケート結果では、話し合いの場面で、いろいろな考えや意見を整理したりまとめたりすることができる生徒は44%だったが、学習後では、73%に増加している。また、図8-2の学習前のアンケート結果では、自分の考えを広げることができる生徒は56%だったが、学習後では85%に増加している。

図9は、あるグループが小学生に中学校の先生を紹介しようというアイデアを、座標軸表の縦軸を効果、横軸を実行の容易さで取り、座標のどの位置に置くのが適切かを話し合った発言の記録の一部を抜粋したものである。

生徒Cは、小学生に中学校の先生を紹介することに最初は否定的であったが、生徒Bの意見を聞いて考え方が変容し、自分の考えを広げている様子が見える。

また、生徒Aは、小学生に中学校の先生を紹介する上で、生徒Bの発言を受けて現時点で実行はしづらいが、どうすれば実行しやすくなるかを考え、他の意見を求めている。話の方向をとらえ反対の意見について考えようとしていることがわかる。

図10のような肯定的な感想は、記述なし(2名)以外の学級全生徒から得られた。話し合いの発言や感想から、座標軸法を用いた話し合い活動を通して、お互いの立場や考えを尊重し、目的に沿って話し合う姿を見て取ることができる。

(2) 考察

これまでの話し合い活動では、考えをまとめたり広げたりすることができないという場面があった。しかし、小学生に興味を持ってもらうという視点を持ち、座標軸表にある二つの軸の観点から話し合う学習指導の工夫を行うことで、生徒は自分の意見や考えを整理したりまとめたりすることができるようになったと考えられる(図11)。

また、図9の生徒Aのように、KJ法で使用した付箋紙を座標軸表の中で位置を移動させながら質問したり意見を聞いたりする相互交流を行うことで、学習内容に対して理解を深め合うことができたと考えられる。このような座標軸法を用いた話し合い活動の学習を行うことで、生徒は反対の立場や考えについても考えるようになり、自分の考えを広げながらお互いの立場や考えを尊重し、目的に沿って話し合うことができたと考えられる。以上の考察から、作業仮説(2)が有効である。

生徒A	生徒指導の先生を紹介するのは、どの位置かな？
生徒B	効果はめっちゃ大。絶対。でも、実行は、しやすくないんじゃない？
生徒C	そもそも、 <u>先生を紹介するのはアリなの？</u>
生徒B	安岡中学校のナニコレ！？で小学生が知っておくべき先生だよ。
生徒C	ああ、 <u>そういう意味では満点だね</u> 。確かに。
生徒A	じゃあ、 <u>実行しやすくするには、どうすればいい？</u>

(注：発言の一部を抜粋。その後、話し合いが続く。)

図9 座標軸表を用いた活動の発言記録

生徒ア	この方法を使うと、 <u>どれが相手に伝えやすいかも考えられて良かったです</u> 。
生徒イ	<u>表にまとめたら見やすい</u> と思った。発表(発言)もちゃんとできた。
生徒ウ	お互いの納得のいく話し合いになった。 <u>機会があれば次もやりたい</u> 。

図10 座標軸法を用いた活動後の生徒の感想

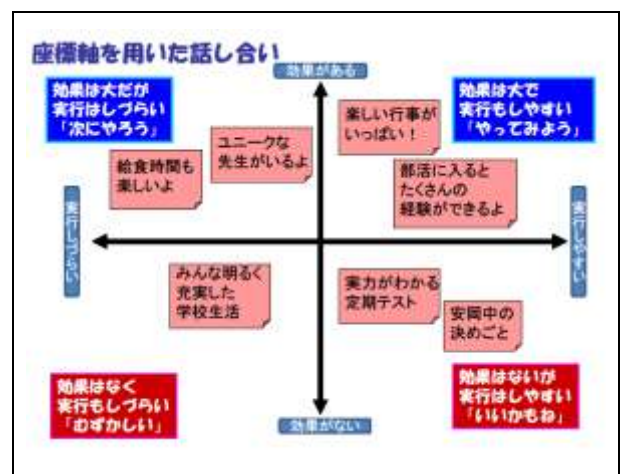


図11 座標軸法を用いた活動の表

3 事後指導の生徒の姿から

(1) 結果

本単元の最後の第6時の振り返りでは、全グループのアイデアを比較・検討し、学級のアイデア大賞・準大賞・プレゼンテーション技術賞を決めた。この際、第2時で取り入れた座標軸法を繰り返して用い、縦軸を資料のわかりやすさ、横軸を説明のわかりやすさで取り、各グループのプレゼンテーションの審査を行った。

図12の単元前のアンケート結果では、相手の立場や考えを尊重して話し合うことができる生徒は56%だったが、単元後では82%に増加している。

(2) 考察

各グループが発表したアイデアを審査する際、発表内容を点数化して決めることが多い。このような審査方法では、生徒は点数だけを表示して評価理由の意見交換を行わないので考えを広げることができない。しかし、座標軸法を用いた審査方法を取り入れることで、お互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、「資料はわかりやすかったが、説明がわかりづらい。」など、評価の判断基準を具体的に明示し、お互いの考えを相互交流しながら審査できたことが、図12の結果になったと考えられる。また、座標軸法を用いることで、学級の大賞にしたいアイデアを個からグループ、学級全体へと広げることができるようになったと考える。

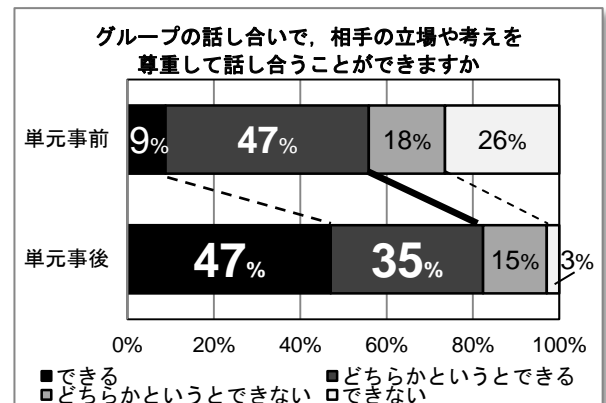


図12「話し合うこと」に関するアンケート結果

このように、単元を通して言語活動にKJ法と座標軸法を取り入れた参加型学習の指導を繰り返すことは、本研究のテーマである「お互いの立場や考えを尊重しながら言語で伝え合うことができる生徒」の育成に有効であると考えられる。

Ⅷ 研究の成果と今後の課題

1 成果

- (1) KJ法を取り入れ、話すときと聞くときの学習指導の工夫を行うことで、論理的な構成や展開を考えて話したり自分の考えと比較して聞いたりすることができるようになった。
- (2) 座標軸法を繰り返し用いることで、学習内容に対して理解を深め合いながら相手を尊重して考えを広げる話し合いができ、「伝え合う力」を高めることができた。

2 課題

- (1) 自らの言葉で共感・比較を表現できる「つなぎ言葉」の学習指導の工夫。
- (2) その他の言語活動を取り入れた学習指導の工夫と実践の研究。

《主な参考文献》

『中学校学習指導要領解説 国語編』	文部科学省	東洋館出版	2008
『言語活動の充実に関する指導事例集』	文部科学省		2011
『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料』	国立教育政策研究所	教育出版	2011
『単元構想表でつくる中学校新国語授業 START BOOK 第2学年』	富山哲也・三浦登志一	明治図書	2011
『国語力を高める言語活動の新展開「話すこと・聞くこと」編』	田中洋一	東洋館出版	2009